

第2回 北九州市新型インフルエンザ等対策行動計画の見直しに関する有識者会議 (議事概要)

- 1 開催日時 令和7年11月27日(木) 19:00 - 20:00
- 2 開催場所 北九州市保健所 6階 61会議室
- 3 出席者 【構成員】
穴井座長、石井構成員、伊藤構成員、植木構成員、内田構成員、紺谷構成員、迫田構成員、
鈴木構成員、中島構成員、中西構成員、羽田野構成員、丸木構成員、山下構成員、山本構成員
- 【事務局】
(保健福祉局)保健福祉局長、医務監、保健所長、健康医療部長、保健衛生部長、保健所担当
部長、保健環境研究所長、健康危機管理課長、保健企画課長 ほか
(消防局)救急課長
- 4 議事次第 北九州市新型インフルエンザ等対策行動計画(改定素案)について
- 5 議事概要

【事務局】

<資料について事務局より説明>

【座長】

- 事務局から北九州市新型インフルエンザ等対策行動計画改定素案について説明があった。
計画素案について構成員の皆様からご意見をお伺いしたい。

【構成員】

- 予算措置について計画の中に盛り込まれる必要があるのではないか。
- DX について、それぞれの項目で具体的に何を DX するのか明確にしてほしい。
- kintone について、現在ブラッシュアップしているのか。GO シートも含めて振り返りや総括を行い、将来の感染症発生時に活かすべき。

【事務局】

- 予算の確保については「実施体制」の中に明記した。
- DX については、サーベイランスでの発生届の電磁的方法による届出促進、予防接種のデジタル化、保健所における kintone 等の ICT 活用による事務効率化等を進めている。
- kintone は 5 類移行後、新型コロナでは稼働していないが、保健所の窓口業務や感染症相談等で形を変えて展開している。
- GO シートは現在休止中。県の行動計画においては必要に応じて活用を考えるとの位置づけ。
- 国全体では G-MIS を活用することとなっており、改善を引き続き行っていく。

【座長】

- 医療提供体制が一番 DX を必要としている。消防と市内の救急病院が連携して行っているシステム活用の取り組みを、参考にしてみてはいかがでしょうか。
- GO シートを再活用してほしい。G-MIS は Mac 対応等使いやすさの改善が必要。

【構成員】

- 計画に記載している薬剤師会との連携実績について具体的に教えてほしい。

【事務局】

- 新型コロナ対応では、治療薬の供給制限時に薬剤師会と連携し、薬局の在庫量を把握したうえで、クラスターが確認された高齢者施設などへ薬剤を届ける対応を実施した。

【構成員】

- 現在も医薬品の供給に関する課題は続いており、個別に薬局へ問い合わせをしないと在庫状況が把握できないのが現状。医薬品卸会社による納品実績の管理システムは、現在構築が進められているが、将来的には「どこに・何があるか」が一目で分かる仕組みが整えば、よりスムーズな対応が可能になる。

【構成員】

- ワクチンの打ち手として歯科医師を想定に含めている点は、とても意義のある取り組みだと思う。今後、実際に歯科医師の協力が必要となった際には、北九州市が要請するのか、それとも福岡県が要請するのか。

【事務局】

- ワクチン接種は市で実施するため、市から協力要請をご相談する形になる。

【構成員】

- GO シートは受入病院の状況が分かり非常に有用だった。ブラッシュアップをお願いしたい。
- 新型コロナの際に、アレルギーなど特別な事情のある方のワクチン接種が一部の医療機関に集中したと聞いているが、今後検討する際に配慮いただきたい。

【構成員】

- 第3部の第13章の一般市民への対応が最も難しい。「準備をするよう推奨する」「呼びかける」といった曖昧な表現になっている。もう少し具体的に実行に移す表現にした方がよい。

【事務局】

- ご指摘を踏まえ表現を精査したい。

【構成員】

- コロナ対応時には、初動から患者数が増加し始めた頃にマスクやガウン、検査試薬などが不足し、

資材・試薬・医薬品の所在が分からない状況が課題となったことから、情報収集を一元化することが非常に重要だと考えられる。

- 情報の収集管理をする中心的なところ、指揮権を持つ人が必要。会議だけでは動かない。
- 偏見差別や偽情報に対して、公的機関としてしっかりとした情報を出す仕組みが必要。

【座長】

- 情報収集の一元化について、具体的にどの部署に集める予定か。

【事務局】

- 市では保健福祉局、その中では健康危機管理課になる。
- 情報を上げて対策を決定する組織として市の対策本部を立ち上げる。

【構成員】

- 患者情報のやり取りが発生するので、DX については消防との連携も検討してほしい。
- 新たな感染症の発生時に、疑い患者の入院を最小限に抑えるため、迅速な検査が可能となるように体制の整備をお願いしたい。

【構成員】

- DX の推進にあたり、現場で多数の患者を診療する際のシステム入力作業等について、可能な限り簡便化を図っていただきたい。

【構成員】

- 北九州市の体制について、専門職の育成にあたり、分野や経験年数に応じた研修を実施し、指導者については国の研修を活用する。専門職が担う必要のない業務を関係職員が対応できるよう、育成を図る。また、新型コロナ等の経験のある職員の一覧を整備する必要がある。
- パンデミック発生時の対応として、初期には発生状況や医療情報の関係機関間での共有、中期には機材の相互融通体制の整備、終期には関係者の支援や次の波への備えが必要である。また、平時からの連携を重視し、関係機関が自助・共助の精神で支え合える体制づくりが重要である。

【構成員】

- 高齢者施設・障害者施設は医療関係者が勤務していないため、ゾーニング等の感染対策に不備が生じやすいため、平時から医療機関との連携や関係性ができること心強い。
- 計画に記載するだけでなく、医療機関との研修会や勉強会の開催回数など、具体的な実施内容を明記することで、実行への確実性がより伝わり、関係者に安心感を与えるものとする。

【構成員】

- 病院併設の介護老人保健施設は研修等ができるが、単体の介護老人保健施設はどこに頼っていいか難しい。

- 医療機関との連携が大事。感染対策の研修会等があれば参加したい。

【構成員】

- 商工会議所の役割としては、企業に対して行政からの情報をできるだけ分かりやすく周知すること。職域接種など、必要な対応が求められる場面においては、積極的に協力していきたいと考えている。

【構成員】

- 人権の制約は必要最小限であるべきという視点が反映されている点は評価でき、こうした制約を伴う政策には、科学的根拠に基づいた効果の証明が求められる。あわせて、各時期に講じられる政策が本当に必要最低限のものであるかを適切に確認し、状況に応じて段階的に緩和していくことが望ましい。

【事務局】

- 感染状況に応じて柔軟に対応を見直す。行動制限等は感染状況によってバランスを考えながら実施する必要があると認識している。

【座長】

- コロナの経験もあるのでしっかり検討してほしい。

【構成員】

- 検疫所として水際対策を担う立場にあるが、会議や訓練等へのご協力をいただけるとのことで、感謝申し上げます。今後、市が実施する訓練の際にはぜひお声がけいただき、当所としても積極的に参加し、学ばせていただきたいと考えている。

【座長】

- 本日は皆様より多くのご意見を頂戴し、非常に実りある会議となった。最後に、追加のご意見やご質問があればお願いしたい。

【構成員】

- 新型コロナの経験を踏まえると、感染症発生後においては、市が独自に対応できる範囲は限定的であり、国や県の方針に従わざるを得ない状況が多く見受けられた。そのため、平時にあたる準備期において、感染症対策に関する物資の確認の仕組みや研修・勉強会の実施体制をあらかじめ整備しておくことが極めて重要。市としては、数値目標の設定や、予算を確保し年1回の研修実施など、具体的かつ実効性のある計画の策定が求められる。

【構成員】

- 先週、厚労省主催の全国保健師向け研修会において、介護施設におけるクラスター対応をテーマとしたワークショップを行った。基本的な対応に関しても全国の保健師間で認識にばらつきが見ら

た。一方、北九州市はこれまでの取組により対応力が向上しており、他地域と比べても高い水準にある。感染症対応においては、実際の経験を踏まえた学びが特に効果的であることから、今後、実践的な内容を取り入れた勉強会の開催を検討してはいかがか。

【座長】

- 我々もできる限り協力させていただくので、ぜひ勉強会や研修の開催を検討いただきたい。

【事務局】

- 本日いただいたご意見を踏まえ、改めて素案の見直しを行う。
- 次の第3回会議は2月頃を予定。本日の意見やパブリックコメントの意見などを踏まえ、最終の計画案をお示しする。